

1年間駐在活動報告書

提出日：2018年3月23日(金)

氏名：前田紘人

駐在期間：2017年4月1日～2018年2月21日

駐在場所：ミャンマー

内容

1. 駐在員としての役割
2. ヤンゴンでの暮らし
3. 1年を振り返って

1. 駐在員としての役割

1) 役割

駐在員の役割として、主なものとその概要を以下に記します。

① 本部への事業・進捗報告

施工現場がどの程度進んでいるか、その他の事業がどのように進んでいるのかをまとめ、木村先生、福林理事及び専門家に報告しました（2週間報告や専門家への施工状況報告書など）。また、何か問題や不測の事態があればすぐに本部スタッフと共有し、解決するよう努めました。

② 大使館への事業進捗報告

大使館へ定期的に訪問し、事業進捗を報告しました。事業3年後の調査同行など、その他大使館から何か要請があれば本部スタッフと共有し、対応しました。

③ ミャンマー行政への事業報告

DRD との MoU に基づき、ミャンマー行政に対しても事業報告を行いました。自分たちがどのように事業を進めたいかを説明し、良好な関係を構築できるよう努めました。



ネピドーDRRD への事業報告の様子

④ 事業管理（予算管理・事業の進め方）

事業をどのように進めていくか、パートナー団体とも相談しながら進めていきました。

予算を管理したり、人員を配置したり、事業にかかわるすべてのことを把握し、特に CSO の結成については何度もミーティングを重ね、進めていきました。

⑤ 専門家・本部スタッフ派遣準備

専門家・本部スタッフを派遣する際に、航空券、ビザ、渡航許可などの手配を行いました。DM とも派遣日程を共有し、準備しました。

⑥ ワークショップ立案・準備

ワークショップの計画を立案し、DM スタッフと協力して準備を進めました。



1月に開かれたワークショップの様子

⑦ 思修館受け入れ・準備

思修館学生のインターン受け入れに際し、ビザ・渡航許可などの手配を行いました。また、ミャンマー側、思修館側、それぞれの要望に応えられるように調整を行いました。



思修館インターンシップオープニングセレモニーの様子

⑧ 外務省への各種書類作成

外務省へ提出する次年度申請書やそれに付帯する書類、中間報告書や完了報告書などの報告書類を作成しました。

⑨ JNN 出席

月に1回開催の日本の NGO の集まりに出席し、情報交換や意見交換などを行いました。



JNNでの研修。集合写真。



AARの訓練学校にて研修を行いました！

⑩ その他本部からの要請対応

その他本部からの要請があった時は適宜対応しました。

2) 大変だったこと

① パートナー団体との協働

色々大変なことはありましたが、やはり一番大変だったことは、異国の地で、まったく違う価値観を持つ人たちと、母国語でない言葉で共に仕事をするることでした。最初ミャンマーに来た時は単純に英語を聞き取る事、コミュニケーションをとる事で精一杯でした。何が当たり前かわからず、基準がわからず、わからないこともわからないような状況でした。到着してすぐ大使館に挨拶に行き、地方出張が始まり、とにかく流れに身を任せながら事業が進んでいきました。



初めての現場、村人との交流。まさに道普請が行われていて感動。

特に自分の意見を持つこともなく、議論をするでもなく、ただただ DEAR Myanmar(以後 DM)スタッフに色々教えてもらうだけで最初の1ヶ月が過ぎました。本部との調整員としての役割も果たせませんでした。福林理事から聞かれたことをそのまま DM スタッフに聞き、DM スタッフからの答えをそのまま返す、という状態でした。

たくさん失敗をしました。ミャンマー人スタッフが「No Problem」と言ったことを鵜呑みにして結局うまくいかなかったり、確認すること、裏をとることの大切さを知りました。

それでも英語にも慣れ、ミャンマー人スタッフにも慣れてくると、だんだんと要領をつかみました。まず、相手が言っていることがわかるようになると、自分の意見を持てるようになります。自然に、自分の意見を言いたくなるのです。DMスタッフと信頼関係が生まれたからかもしれないし、仕事に余裕が出てきたからかもしれないですがとにかく、議論をするようになりました。

また、確認もたくさんするようになりました。DMスタッフは一度言ったくらいではなかなかやってくれないことも多いので、メールで伝えたり、電話でリマインドしたり、様々な工夫をしました。

調整員としても、色々と工夫しました。福林理事から聞かれたことを、まずは自分で咀嚼し、本当に知りたいことは何なのか、補足で必要なことはないか考え、DMスタッフに確認してから福林理事に返信するようにはしていました。

価値観の違いでぶつかることも少なくありませんでしたが、DMスタッフと議論しながら事業を進めることは楽しく、価値のあるものでした。反省点があるとすれば、そういう場を多く設けられなかったことです。四方八方事業現場へ行ったり、DM自身に他のプロジェクトがあったり、事務作業をしなければならなかったりとなかなかミーティングの場を設けられなかったのです。

② 工夫

①にも記したように、DMと事業を進めていく中で色々な工夫をしました。細かいこともありますが、以下に私が行っていたことを記したいと思います。

➤ ゆっくり、はっきり話す

そもそも、日本人の英語の発音と、ミャンマー人の英語の発音はかなり違います。さらに、DMスタッフの中には英語が得意ではないスタッフもいます。そのような状況で小さな声で早口で話してしまっただけでは、単語は知っていても通じないことが多くなってしまいます。ゆっくり、はっきり話すだけでコミュニケーションが格段にとれるようになりました。

➤ 話す内容を整理してから話す

普段日本語を話すうえでは飛ばしがちなステップですが、とても重要だと感じました。日本語でもよいのでまずは自分で話す内容を整理し、相手にどの順でどのように説明するかを考えてから話すことで、生産性の高い会話につながりました。一度自分の頭の中で考えることで、英語表現がわからなければ調べることもできます。

➤ 資料を作る

絵にかいたり、見せたりしながら話すと、相手の理解度は格段にあがります。説明も

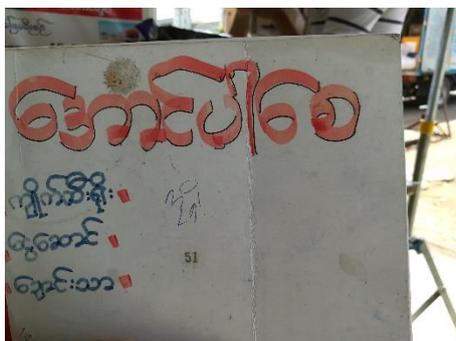
しやすいです。ミーティングに臨むときはどのような資料があればより効率よくミーティングができるか考え、準備してから臨みました。

➤ **裏をとる。確認をする。**

仕事を頼んだり、何かお願いしたりする時は、それで終わりではなく定期的に進捗を確認することが必須です。また、イエスと言われたことも言われるがまま信じるのではなく、論理的に考え、他の情報なども駆使し、本当に正しいかを考えてから判断していました。また、常に第二の手を考えておく、ということも大事でした。ミャンマー人は **No Problem** と言って、問題がたくさん起こることも多いので、この手がダメだった時にどのように対応するかを常に考える習慣をつけていました。

➤ **ミャンマー語を習得する**

これは意外と役立ちます。何もミャンマー語がペラペラなわけではないのですが、単語をいくつか知っているだけで強力な補助コミュニケーションツールになります。DMのエンジニアなどは英語が達者ではないので、英語とミャンマー語混合で話した方が伝わりました。



ミャンマー文字。丸っこいのが特徴的。

2. ヤンゴンでの暮らし

今後ミャンマーで駐在員をするかもしれない後輩のために、私のミャンマーで暮らして感じてきたこと、得た知識を以下にまとめます。

1) 暮らし

- ✓ 物価は日本の3分の1程度です。ヤンゴンにはショッピングモールやスーパーマーケットも数多くあるため、生活に必要なものは大体なんでも揃います。ただし、スーパーによって、売っているものは異なります。今のところ味噌を売っているスーパーは1つしか見つけていません。

- ✓ レストランには困りません。中華、日本食、イタリアン、インディアン、何でもあ

ります。通信速度は遅いですが、ほとんどの店に WiFi があります。この点に関しては、日本より便利だと思います。



ミャンマー料理。辛くて脂っこくておいしい。

- ✓ 気候は温暖なため、年中半袖で暮らせます。ただし、クーラーの設定温度は低いので、パーカーのような上に羽織るものを1着持っているとう便利です。
- ✓ 6月～10月の雨季は毎日雨が降るため傘は必須です。道路も冠水する箇所がいくつもあるので、基本はサンダルを履いていました。また、湿気も多いため、家にいない時でもできるだけクーラーをつけておく方が良いです。服にかびが生えることさえあるらしいです。



雨季のヤンゴンの道路様子

- ✓ 移動手段はバスかタクシーになります。YBS というアプリを入れておけば、何番のバスがどこに行くのかすぐに調べることができて便利でした。ただし、番号はミャンマー語で書いてあるため、ミャンマー数字を覚えておく必要があります。バスは一律 200 Kyat です。タクシーは Grab タクシーを利用しても、流しのタクシーを拾っても良いです。Grab では常に何かしらのプロモーションをしているため、値段は Grab の方が安いと思います。しかし、Grab の運転手は地図を読むことができず、必ず電話をかけてくるため、普通に捕まえて交渉するよりも現在地を伝える手間が増えます。英語もあまりできないことが多いです。
- ✓ 夜遅くなると、タクシーで帰った方が良いと思います。夜になると、警戒するのかが、かなりの犬に吠えられ、怖い思いをするからです。吠えられるだけならいいですが、知り合いは犬にかまれ、10針縫っていました。

- ✓ 基本的にはトイレに紙を流してはいけません。水洗い式にチャレンジするか、使用した紙はゴミ箱に捨てます。
- ✓ 停電がよく起きますが、意外とすぐ回復します。
- ✓ 水道水は飲んではいけません。見た目からして茶色いです。
- ✓ 携帯電話は充電した分だけ通話、ネットができる TopUp 方式です。個人的には日本よりも便利だと思います。

2) 地方に行くと・・・

- ✓ スーパーマーケット、日本食レストランなどはほとんどありません。レストランはほとんどがミャンマー料理レストランで、たまに中華のお店があります。
- ✓ さらに事業村の付近に行くと、電波も届かないところもあります。電気も通っていないので裕福な村の人で、太陽光発電を利用しています。
- ✓ トイレには、紙はなく、水で洗うスタイルです。
- ✓ 11月～1月頃にシャン州などの北の方に行くと朝晩はかなり冷えこみます。

3) 印象に残っていること

ミャンマーで1年間過ごしてみて、たくさんの経験をしました。本当に刺激的な1年間でどの出来事も印象的だったのですが、総じて感じる事として、ミャンマー人は優しい人が多い、と思います。優しい、というより、心が温かい、といった方が近いかもしれません。困っている人を見ごせないのがミャンマー人です。例をあげましょう。ミャンマーでは、ブシューと音を立てながら今にも壊れそうなバスが走っていることも珍しくなく、道路の真ん中で動かなくなってしまっているバスも見かけます。そんな時、どこからともなく人が集まってきて、バスを押し始めるのです。いつの間にか20人～30人くらいの人が集まり、みんなでバスを押し始めます。足りなければ近くにいた人を誘い、どんどん仲間を増やします。



止まったバスを押しミャンマー人たち

ほかにも、店のスタッフに英語が伝わらず困っていると、必ず近くにいる英語のできるミャンマー人が助けてくれます。日本人が冷たいとは思いませんが、ミャンマー人は人と

人との距離感が近いと感じました。そこに温かさがあり、なんといいですか、ゆとりがあると思いました。

ところで、ミャンマーの人は時間を守らないことが多いです。時間の流れがゆったりしていて、どっしり構えています。遅刻しても特に気にしません。そこにいら立ちを覚えることもありましたが、それがミャンマーです。村の人たちが時間も忘れ、和やかに会話を楽しんでいるのを見ると、なんだか心がホッと、心地よくなる時がありました。近年ロヒンギャ問題が国際的な問題となっています。非常に難しく、複雑な問題ではありますが、ミャンマー人がミャンマー人らしい温かさゆとりを持つことが一つの解決の糸口ではないかと思います。

3. 1年を振り返って

最後に、約1年間のミャンマー駐在を終えて思うことを以下に記したいと思います。

2017年4月より赴任してから、2018年2月末に帰国するまでの約11ヶ月間、今まで知らなかったことをたくさん知りました。1年前は、ミャンマーのミャの字も知らなかった私が、タクシードライバーや近所の人とミャンマー語で簡単な会話ができるまでになりました。ミャンマーの人々は親切で明るく、ちょっぴりシャイで、辛いものと米が大好きだということも知りました。ミャンマーのミルクティーやお菓子がすごく甘いことも今は知っています。道路の上に吐き捨てられた赤い嘔みたばことそこら中に寝転がる野良犬はミャンマーの定番の風景です。本当に色々なことを経験しましたが、中でも衝撃だったことがあります。



嘔みたばこを作っている様子



道のど真ん中で寝そべる犬

それは、道が悪くて進めない、という経験です。人生で初めてでした。ミャンマーの道路は幹線道路でさえも整備されていないところが多く、四駆自動車ですら泥にはまり進めなくなることがあります。完全に道路舗装が施された後の日本で育った私にとって、これはかなりの衝撃でした。しかも、ミャンマーの雨季は6ヶ月あり、悪路も同じだけの期間続きます。その間車やバイクは通ることはできず、牛車かあるいは、相当な時間をかけて歩くしかないのです。こんなところで生きている人たちがいるのか、と思いました。



ミャンマーのとある幹線道路。四駆でも道が悪くて進めない。

そういった悪路の問題を解決するために、村人たちがマンパワーで石を並べ、土で舗装していきます。その光景はとても美しく、土木の原点を見たような気がしました。もちろん、そこにはエンジニアに裏付けされた計算根拠があります。学校で勉強したことがそのまま現場で使われているのを見るとわくわくしました。知識と実社会が結びついた瞬間でした。

土木工事は、設計通りいかないことがほとんどだということも知りました。特に私たちの事業地では、道路沿いの土地所有者と交渉したり、道幅が狭く排水路の確保が難しかったり、次々と困難が現れます。逆に付近に良質な土を発見するなど、ラッキーなこともあります。現場で色々な困難が現れても適宜対応しながら施工をしていくのは楽しく、やりがいのあるものだと感じました。

さらに現場の良い所は、目に見えてモノができていくところだと思います。道路が完成した瞬間は感動しました。そして、完成したモノは人々に幸せをもたらします。村人たちの喜ぶ顔を見ると胸がつまりました。道普請人の仕事の良い所の1つは裨益者の顔が見えることだと思います。さらに、この被裨益者は、実際に道直しを行った当事者でもあります。

もちろん、言語の壁や文化の違いにより、ストレスを感じることもありました。自分の情けなさに憤りを感じることもありました。後半戦はミャンマー人スタッフと喧嘩もたくさんしましたが、これも良い経験です。

色々な人に出会い、今まで味わったことがないような経験ができ、価値ある1年間になりました。迷惑もたくさんかけましたが、お世話になりました。1年間ありがとうございました。



以上